



# 標茶町

発行 標茶町農業委員会  
編集 広報委員会

川上郡標茶町川上4丁目2番地  
電話 485-2111  
(内線171・172)  
FAX 485-4111

# 農業委員会だより



農地パトロールの様子

主な内容

産業まつりを終えて……………	P. 2
農業パトロールを終えて……………	P. 2
農業委員会道内視察研修に参加して……………	P. 3
農業者年金について……………	P. 3
平成29年度農業委員会活動強化研修会に参加して……………	P. 4
標茶町ニューホーム推進協議会の活動……………	P. 4
編集後記……………	P. 4



農業委員会総会は毎月 **25** 日に開催を予定しています

■ 許可申請書、農用地利用集積計画の申出、現況証明願書は、  
当月の10日までに農業委員会に提出してください。

「産業まつり」を終えて



産業まつりの様子

9月10日「第44回標茶町産業まつり」が、標茶町開発センター前の特設会場で開催され、気まぐれなお天気にもかかわらず、多くの人たちで盛り上がり上がっていました。

農業委員会では「農業委員会の見える化」を目指して展示コーナーを設けました。クイズを出題し、展示パネルを読み進めると、おのずと答えが書けるものを用意しました。農業委員の定数やどのような人が委員になれるのか、札幌ドームに例えた標茶町の面積や健康効果を高めるミルクを飲むベストなタイミングなどを出題し、挑戦されたみなさんはパネルをしっかりと見て読んで回答してください、お渡しし

たプレゼントにも喜んでいただきました。

また、農業者の方には、家族経営協定のパネルを熱心に読まれる方や、農業者年金について担当者から詳しく説明され、理解を深めておられました。恒例になった「しべちゃ牛乳」の試飲では、「この牛乳おいしいのよねー」と言つて手を出してくださる方や、「この牛乳、どこで売ってるの？」と尋ねてくださる方など、皆さん笑顔で、コクのある甘い「しべちゃ牛乳」に舌鼓を打っておられました。「一生産者」として嬉しい限りです。

標茶町の基幹産業を守るためにも、農業委員会の活動は重要であると感じた一日でした。

(農業委員 森田 享子)



産業まつりの様子

農地パトロールを終えて

年1回以上の農地パトロールは我々農業委員の仕事の一つでもあります。昨年10月から重点期間として、委員全員が町内の農地を4地区に分け、パトロールを行いました。普段から、車の移動中などで耕作されているところを確認することはしていますが、パトロールでは、通常見ることのない畑や贈与税の納税猶予対象地、相続未登記の農地などを集中的に見て回りました。

我々の班は、磯分内・栄・多和地区を担当し渡邊委員、森田委員、熊谷委員、私と事務局2名の計6名で調査を行いました。特に問題となる農地は見当たりませんでした。

私は、普段から出掛ける際、帰り道などで時間があつたらいつもと違う道を通るなど、農地を見て回るようにしています。雑種地だと思いついて農地に、D型ハウスや太陽光発電施設を建てようとするものが数件ありました。見つけた時は、地目や手続などどの確認をお願いしますが、広報などでも呼び掛けていかなければならないと思っております。

また、最近では3連のモアコンや10メートル以上のテッターをはじめ、機械の大型化やコントラ事業が普及した

ためか、畑の淵や細かい角、傾斜のきつい狭い部分の刈り残しが目立ってきているように見受けられます。一つの大きな畑にすることで問題の解消につながると思われることから、あつせんなどの際、できる限り隣接地にするなど、農地の集団化を進めていかなければなりません。また、交換分合による手法も取り入れ集約と効率を高めていかなければならないと考えております。

離農の反面、メガファームも増えていく中で土地の有効利用についてこれから考えていかなければならないことは多いと思っております。

(農業委員 嶋中 勝)



農地パトロールの様子

農業委員会道内視察研修  
会に参加して

昨年の11月6～7日、初めての視察  
研修会に参加しました。視察場所は、  
北海道農業研究センターとホクレン  
「くるるの杜」の2か所です。

最初の研修場所の北海道農業研究セ  
ンターでは、自給飼料の研究成果など  
について講義していただきました。元  
は農林水産省北海道農業試験場で、国  
立研究開発法人として各研究所が統合  
化され現在に至っています。研究セン  
ターは北海道の農業、食品産業の発展  
に寄与し、安全安心な食料を安定供給  
するため生産現場の先導的研究開発、  
速やかな普及を図ることを使命とし生  
産現場の声を研究方針により反映させ  
る仕組みを整備し農業関係、異分野の  
研究機関、行政、大学、民間等と連携  
を深め成果の最大化をめざす役割を  
担っており、全国的に営農人口減少と  
営農規模拡大の傾向や輸入農産物との  
価格競争にも直面する中、生産体系革  
新と競争力強化に貢献できる新技術を  
開発し生産現場へ速やかな実装を目指  
しているとのこと。本部は茨城県つく  
ば市にあり、道内では芽室研究拠点と  
札幌市に北海道農業研究センターを置  
き4カ所の研究部門・研究センター等  
の拠点を構え、研究用地は芽室も含め

て建物敷地45.4ha、畑282.5ha、水田8.2ha、採草放牧地150.7ha、山林他498.8haで合計980.7haで芽室町では寒地畑作研究監、畑作物開発利用研究領域、大規模畑作研究領域が研究開発を行い、札幌では水田作研究領域、酪農研究領域(搾乳してます)、生産環境研究領域、作物開発研究領域として各グループに分かれ、広大な試験圃場で研究開発しています。私たちの作目の牧草は那須試験圃場で行っているそうです。

日本の国産飼料自給率は30%程で、例外なく輸入に頼っています、今後は世界人口の増加や食糧難に陥るリスクは高く、その様な事態のバッファ剤として酪農ではアルファルファに匹敵する草種であるガレガの栽培を推奨していました。アルファルファより栽培しやすく、自給タンパク飼料源として北海道は広い土地での栽培が有利だと思いました。飼料用トウモロコシでは収穫において、クラッシュ処理したほうが養分吸収率は有利であり消化試験をした結果でしょう。また、イアールコーン(実取り)の試験もしていて収穫に特別な機械投資は無く畑作の装備を使って処理していました。コストは2010年で51円/kgでしたが、品種改良や栽培技術の確率、ビニールマルチを駆使し、現在は36円ほどにコス

トダウンしたそうです。子実の芯も入れたハイモイスチャーコーン(子実サイレージ)の試験もしているようです。圃場配分としては、デントコーン畑の一部をイアールコーン収穫用として分けて栽培する方法を推奨しているそうです。この技術は農家レベルで実践している、家畜の栄養源をこの技術革新で自給する研究だと感じました。穀物輸入がストップした事を予想すると必要な研究と実感し近い将来には標茶でも普及するのでしょうか。

「この様な最先端技術をどの様に現場の農家に普及しているのか」との質問には主に普及センターや大学、専門誌等で情報発信しているとのことでした。今回は私達、酪農に関する研究成果中心の講義でしたが、畑作や水田の育種改良や病害虫対策と栽培技術では耕作面積の大規模化における自動運転作業やIT化など、様々な分野をグループで研究開発しているとのこと、あつと言う間に時間が過ぎ、研修を終了しました。

翌日、7日はホクレン「くるるの杜」の視察でした。この施設はホクレン農業協同組合連合会の事業主体で管理運営する複合施設で畑や田んぼでの作業体験や、調理加工でできる体験型エンターテイメントが整い、農産物直売所や新鮮な農産物を利用した農村レストランがあります。直売所では、収穫さ

れたばかりの新鮮野菜や米、豆、乳製品など所狭しと陳列され、北海道の農産物の豊富さに驚きました。11月なので体験圃場は閉鎖していて残念でしたが、沢山の方が来場して買物をしていました。農村レストランはバイキング方式で、私たちも昼食を取りましたが、まさに新鮮な産直の食材ばかり。女性に人気があるようで、席の大半を占めていました。夏場には家族連れやカップルが農業体験もできる楽しいテーマパークでもあり、標茶町にもあると活性化すると思えました。お腹もいっぱいになり、標茶への帰路となりました。農業委員に就任して初めての研修でしたが、有意義な時間を過ごさせて頂きました。今回学んだ事は今後の農業委員活動に役立てて行こうと思っております。乱文にて失礼いたします。

(農業委員 平間 清)



道内視察研修の様子

平成29年度農業委員会活動強化研修会に参加して

1月25日、札幌市「かでる2・7」にて農業委員会活動強化研修会が開催され、当日の天気が大荒れとの予報の中、何とか無事に到着することができました。全道各地より四百二十六名の参加者があり、標茶町は農業委員8名と事務局1名で参加しました。

研修では「担い手の確保・育成と円滑な経営継承について」と題した北海道大学大学院農学研究院稲村教授による講演。そして「富良野市農業担い手育成機構による新規就農の育成」と題した一般財団法人富良野市農業担い手育成機構上田事務局長の事例報告が行われ、平成28年の農業委員会法改正により、担い手への農地利用の集積・集約化と新規参入の促進が農業委員の必須業務となったこともあり、まさに今後の農業委員活動に活かすべき内容であったと感じております。

担い手確保は農業全体として大きな課題ですが、北海道は経営者の世代交代が比較的早く行われていることと、農業後継者の確保割合が低い特徴がある(特に稲作等の確保率が低い)とのことでした。なお、経営規模が大きい上に、新規参入者への経営資源の受け渡しは家族内部の受け渡しに比べてはるかに難しく、その対応として助成や融資による初期投資の負担軽減と、研修による技術の引き上げに集中し行われてきた経過があります。



農業委員会活動強化研修会

今後においても、地域の理解と協力が前提となりますが、新規就農の多様化について述べられ、初期投資軽減に向けての「借地経営タイプ」「雇用就農タイプ」に触れ、キーワードとして「多様化」「第3者継承」「中間保有」があげられており、特に中間保有については、中間管理機構の機能を持った組織を作り、借地により研修中から自分の就農する圃場にて研修を積み、地域コミュニティを形成していくことで、農地の計画的取得と農村社会の担い手を確保できるのではないかとのこととありました。

事例発表をいただいた、一般財団法人富良野市農業担い手育成機構はまさにその「中間保有」やきめ細かな支援(UターンやIターン就農等)を行っており、4年の長い研修期間ですが、

内2年は就農予定地で研修し売り上げも上げるという仕組みで取り組んでいくとのことでした。

今回の研修に参加して、全道の課題は標茶町においても課題であるところからためて考えるところですが、一歩一歩前進し、多くの若者が参加する農業に向けて、微力ではありますが努力していきたいと感じながら帰郷しました。

(農業委員 渡邊 裕義)

標茶町ニューホーム推進協議会の活動

農業委員会では、農業後継者のパートナーとの出会いの場を提供する「標茶町ニューホーム推進協議会」の事務局を担っています。標茶町農業協同組合と連携し町内や札幌での交流会、他の市町村と連携して行っている「北海道農業青年と関西女性との交流会」などの企画・運営を行っております。

幸せなカップルが誕生した時の喜びは非常に大きく、様々な課題を工夫しながらより良い催しにしていきたいと努力しています。

今後も交流会形式に拘らず、新たな企画を考え提供させていただきたいと思っております。ご要望などありましたら、お気軽に農業委員会事務局にお寄せいただきますようお願い申し上げます。

編集後記

今冬の平昌オリンピックは、たくさん日本人選手が活躍しました。

フィギュアスケート男子では、羽生結弦君が6年ぶりの連覇となり、更に宇野昌磨君が銀メダルとワンツー金銀と最高の結果となり、日本中が喜びに包まれました。

その喜びの中で私が注目したのは、宇野君の素晴らしい心の強さと、あまりにもクールな演技です。

標茶の酪農、一次産業も、今のパブルのような時期から必ず反動がきます。羽生君のたゆまぬ努力と宇野君のぶれぬ心を見習えば、標茶町の明るい未来があると思います。

(広報委員 高松 俊男)

全国農業新聞

毎週金曜日発行 B3版8~10頁 購読料:月700円[送料、税込み]

全国農業新聞は農業委員会組織が発行する農業総合専門誌です。

「週刊」の時間を生かし、わかりやすくまとめています。さらに全国47都道府県にある支局の県版・地方版の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

購読のお申し込みは農業委員会事務局まで。